

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

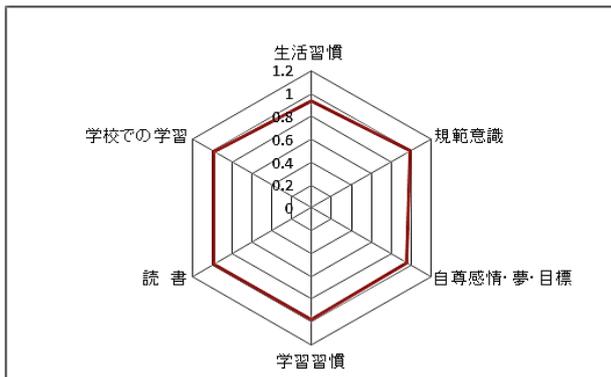
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・「読む能力」は定着しているが、ローマ字や漢字の読み書きに課題が見られる。既習の漢字やローマ字の読み書きを継続して指導する必要がある。	下回っている
国語B	・文の要旨をまとめたり、指定された文字数で自分の考えを書いたりする「記述式」の問題の正答率が全国平均を下回っている。今後も様々な活動の中に「書く」活動を多く取り入れ、個に応じた指導をする必要がある。	同程度である
算数A	・数と計算領域の技能は高いが、図形領域や数量関係の領域に課題がある。継続して基本的な四則計算の技能を高めていきたい。	同程度である
算数B	・考え方を選択したり、適用したりする問題の正答率が高いが、自分の考えを根拠を示して説明し、説明を文章で書く問題に課題がある。	同程度である

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・規範意識、学習習慣、読書、学校での学習に関しては全国平均並みであった。
- ・朝食を毎日食べない児童が全国平均より高く、基本的な生活習慣がなかなか定着しない傾向にある。家庭の協力が一層必要であることが考えられる。
- ・「自分にはよいところがある」と答えた児童が全国平均より低い。自分のよいところ、自信の持てることを再認識させ、自尊感情をさらに育てていきたい。そのためにも家庭でのお子さんへの声かけに留意していただき、セルフイメージを高めるようにしてほしい。

### 3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 基礎的・基本的な学力向上のため朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。
- 担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。
- 単元や学習のまとめに学習プリントを活用し、基礎基本の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習がんばりカード」を使用し、毎日、学習の確認をして、家庭学習の習慣化をはかるようにする。家庭学習においては、自主学習ノートの活用を位置付ける。
- 学級懇談会や個人懇談会、学校便り等を通して、学力テストの課題などを保護者へ周知する。